次代を担う

― 地域資源を生かした産業振興 ―

優秀な人材が決め手に……吉田氏

池ノ上　東九州メディカルバレー構想は宮崎・大分両県で同構想推進会議を立ち上げ、推進段階に入った。宮崎大でも研究者などの体制づくりを進める。注目の血液浄化療法はいろんな病気を引き起こす体内の余計な物質を強制的に取り除いて治療する方法で、松居会長からも話があったようにこの分野の研究者を早急に育てる必要がある。宮崎大は研究、診療体制を整えて研究分野を広げていくほか、医師と臨床工学技士が自由に入れる体制を作ることで、医師とともに治療機器の不具合の発見や新機器開発にもつなげることができるだろう。具体的な研究・診療拠点は宮崎県立延岡病院。これまで一般病院で研究を進めることはできなかったが、宮崎大の倫理委員会で研究内容を議論し、社会的なコンセンサスを得ながら、研究を進めていく。病院医療としても従来の医療方針とは異なり、フレキシブルな取り組みも期待できる。

一方の臨床工学技士育成は延岡市の九州保健福祉大や、大分県別府市の立命館アジア太平洋大学（APU）が担う。アジア各国から人材を集め、海外で使う治療機器の不具合を直せるよう臨床工学技士を育成。大分大は医学部にある治験センターを使って治療機器の研究開発を推進していく。

道本　本県の強みは豊富な農産物。生産者や食品加工業者のモノづくり意欲は高く、今後の需要減に対する危機意識も高い。課題は素材を十分生かしきれていないことだ。野菜や果物などは基本的に青果中心で、加工用の品種を「育てる」「作る」といった点が弱い。青果が高く売れる時は加工用に回せないといったこともあり、原料供給が不安定では食品への工業化は難しい。青果用と並行して加工用の品種を開発することも食品産業を振興する本県にとって農商工連携を実現する点でも重要だ。

また国内の需要減少、グローバル化による競争激化で、漬物を含めた県内の食品業界の中小企業の多くは、生き残りに試行錯誤している。国内外の厳しいステージで戦うには、製造技術や品質管理、新商品開発といったスキルをもっと磨かなければならない。さらに国や県が推進する農商工連携や6次産業化、食品産業活性化事業などのテーマは県内にたくさんの支援機関があるものの、中小企業が具体的にどこを窓口に相談したらいいか分からない状況もある。製造、開発などの技術指導に加えて、国や県の施策を指導する食品産業全体をとりまとめるひとつの組織があってもいいのではないだろうか。その組織には生産者や製造業者が一方的に商品開発するだけでなく、マーケティングや消費者ニーズの情報収集・交換の機会をつくるマーケットインの発想を期待したい。県には引き続き農産物加工業への指導、支援強化をお願いしたい。

米良　農商工連携、観光産業の振興について、宮崎商工会議所は10人の専任スタッフを配置。県内39商工会議所と連携して「今、何が求められているのか」といった情報交換を絶えず行っている。また各地区を代表する9商工会議所会頭にお願いして名所、旧跡など宮崎の良いところをもう一度見直す、再発見する取り組みも始めた。埋没している地域の魅力や磨き上げればブランド化できるものもまだまだあるはずだ。県内中小企業者にとって数ある情報の中から消費者ニーズをつかみ、ブランド化することは、道本社長が指摘されるように確かに難しい面もある。商工会議所としても必要に応じて支援強化に取り組んでいく。

ソーラーフロンティア
常務執行役員生産本部長
兼国富工場長
吉田　博氏

地域の将来の展望について

―地域の将来像や可能性、提言についてうかがいます。

吉田　太陽電池は薄膜系と結晶系製品がある。一般に結晶系が変換効率が良いといわれるが、当社の薄膜製品も12％を超えてきている。太陽電池は通常、発電し始めるとだんだん出力が落ちてくるが、当社製品は太陽を浴びると5―10％出力が上昇する。出力を長期間一定に維持し、耐久性が良いため、結晶系と比べた年間発電量も多いのが最大の魅力。今後太陽電池は休耕地や駅舎の屋根などいろんなところに導入されていくだろう。当社の強みを生かし、宮崎県産太陽電池として世界中に普及させたい。

道本　県内13社の漬物製造業者や宮崎県食品開発センターが組織する「宮崎県干したくあん・漬物研究会」に参画している。この研究会の目的は干したくあん、ラッキョウなど県産漬物のブランド化だ。食品の美しさ、安全・安心は当然のことで、今後食品に求められるのは機能性。これまでの研究活動でダイコンを1週間以上干すと、ストレスを抑える効果があるアミノ酸の一種、ギャバが増えることがわかってきた。今後も研究を続けて魅力あるブランドのひとつの足がかりとしたい。また県の優良県産品推奨制度のもと、認証された製品を製造する業者の有志で県商業支援課の協力を得て「宮崎県優良県産品の会」を立ち上げている。県産品のPRや販売促進活動を行いながら、会員間で異分野の情報を知ることや互いに商品の見せ方、売り方を学ぶ機会をつくっている。災害からの復興、イメージ回復を目指す県の「オールみやざき営業チーム」の一員として、情報発信や販売促進活動を積極的に行いたい。東アジアにおける拠点づくりも県の指導をいただきながら、その可能性を探りたい。

米良　今後本県の観光産業は、これまでの自然環境の素晴らしさや南国情緒などの地域資源ではなく、全く新しい観点から地域の魅力を見いだすべきだ。東九州メディカルバレー構想により医療機器産業の集積による地域活性化が実現すれば、地域医療が充実し安全・安心に暮らせる社会ができる。さらに太陽光関連では二酸化炭素（CO_2）を排出しない自然環境に配慮した社会が実現する。これこそ老若男女が一度は行ってみたいと思う本県の新しい魅力となり、自然環境を活用した新産業の創出にもつながるはずだ。

モノづくり立県目指す……河野氏

―これまでの皆さんの意見をお聞きになり、知事のお考えはいかがでしょうか。

河野　県内産業は日照時間を生かした太陽光発電や医療機器、農業、漁業などがあり、観光資源も国内外から高い評価を受けるなどさまざまな強みがある。県北地区は化学繊維や医療機器、県央地区は太陽電池、電子部品、県西地区は食料品、森林、自動車部品、県南地区は紙、パルプ関連産業と、県内全域で地域特性を生かした産業がバランスよく分散しているのは確かだ。ただ製造業でいえば、残念ながら大企業が多く立地する状況はない。それだけに県内産業をけん引する競争力ある地場リーディング企業の育成や、新たな産業づくりに向けてこれからの4年間で100社の企業立地を目指したいと考えている。さらに観光や産業振興では今後、東アジアの成長を取り込むことも必要だ。

中小企業支援では道本社長や米良会頭からご指摘を受けた通り、農商工連携、産学官連携を強化して新商品、新サービス、新技術などを開発していく。宮崎県食品開発センターなどを通して、きめ細かな地場企業支援に取り組んでいきたい。6月には、30年に向けた本県が目指す将来像を描いた総合計画「長期ビジョン」を策定した。時代のニーズに応える産業が地域に展開し、安心して働ける社会づくりを目指していく。直近4年間の産業振興策の柱は四つ。太陽光電池関連産業を核に環境・新エネルギー先進地づくりやフードビジネスの展開、「地域発」産業創出・雇用確保、観光交流・海外展開といったプログラムに取り組む。

今日参加した皆さんからは、地域資源を最大限活用し、国内外に発信できる産業づくりをうかがった。今後、地域経済を活性化させるエンジンとなる産業を育てるには皆さんの協力が欠かせない。産学官、農商工連携といった地域力を結集し、将来は宮崎発の新技術、新産業を生み出すモノづくり立県を目指していきたい。

―本日はどうもありがとうございました。

……

宮崎県経済の復興に向けて産業振興を誓った

オール宮崎で情報発信を……道本氏

道本食品社長
道本　英之氏

日刊工業新聞は宮崎県のモノづくりを応援します！
日刊工業新聞社 西部支社

中央会は中小企業連携活動のパートナー
宮崎県中小企業団体中央会
会長　外山　勝
〒880-0013　宮崎市松橋2丁目4番31号
TEL(0985)24-4278　FAX(0985)27-3672
URL http://www.himuka.or.jp

宮崎県商工会議所連合会
会頭　米良　充典
宮崎市橘通東1-8-11　TEL0985(22)2161

新たなる食ビジネスを構築する
第22回 西日本 食品産業創造展'12
PROFESSIONAL FOODSERVICE, INDUSTRY & CREATION
会期 2012年5月16日(水)～18日(金)
10:00～17:00(最終日は16:00まで)
16日・17日は商談中心のビジネスデー
会場 マリンメッセ福岡
主催 日刊工業新聞社
共催 西日本食品産業創造展 開催委員会
新規展示企画
◎食品関連コーナー
水、ソフトドリンク、アルコール類の商品開発から販売
◎農業の機械化・植物工場コーナー
品質と量の安定化へ向けた集約的生産の推進
特設コーナー
◎環太平洋アジア連携コーナー
◎食を通じた健康・美コーナー
展示会のお問い合わせ
日刊工業新聞社 西部支社 展示会事務局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町1-1
TEL.092-271-5715 FAX.092-271-5881
http://www.nikkanseibu-eve.com/food/
E-mail:foodinfo@media.nikkan.co.jp
仕事の流儀とともに
Whenever you're in trouble, Won't you stand by me.
出展募集中!

環境保全を使命とし、
技術向上の歩みを
たゆまず続けて
まいります。
プラスチックバルブで世界をリードし、
鋳造用樹脂やフェノールフォーム用樹脂でも
国内トップシェアを有しています。
旭有機材工業株式会社
延岡本社／宮崎県延岡市中の瀬町2-5955 TEL.0982-35-0880
東京本社／東京都港区浜松町2-4-1 TEL.03-3578-6001

昨日まで世界になかったものを。
AsahiKASEI
旭化成株式会社　延岡支社
www.asahi-kasei.co.jp

スーパーオーブン　過熱蒸気調理装置
6つの特長
1 火を使わないので安全（火災が発生しない）
2 清掃が簡単（衛生的で良い）
3 作業環境が良い（作業効率もアップ）
4 短い調理時間で、繊維細胞をこわさない（歩留が良い、栄養分の残留が高い）
5 高温殺菌、低酸素状況下での調理（保存性が高い、酸化されにくい）
6 低コストでの加工（熱量が高温空気の10倍）
キヨモト
清本鐵工株式会社
本社・延岡工場／〒889-0595宮崎県延岡市土々呂町6丁目
TEL(0982)24-1111　FAX(0982)24-1145
東京・関東・富士・大阪・倉敷・佐賀・大分・長崎・日向・都城
http://www.kiyomoto.co.jp/